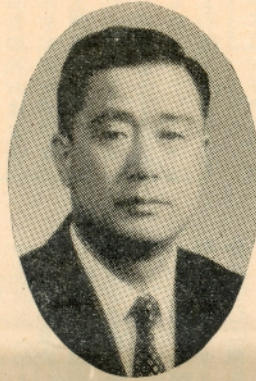
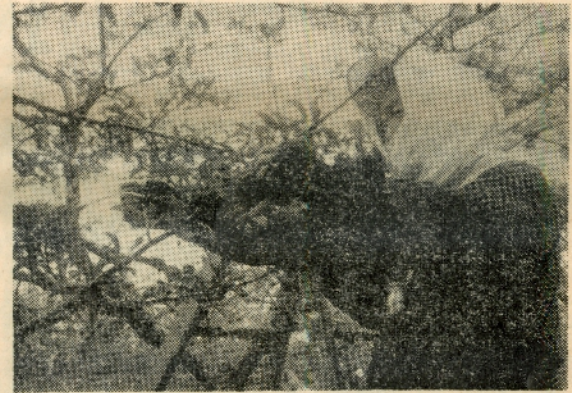


市政ニュース

昭和47年5月15日 280号
毎月1日・15日発行 一部4円
発行所 五所川原市役所



市長 佐々木栄造

県企画部が先ごろまとめた県内八市の三月の消費者物価指数によると、五所川原市は「最も消費者物価が安く暮らしやすい」という結果がでたが市では恒久的な物価安定対策として、市民と直結した「物価流通対策班」を設け、暮らしやすい市づくりに向けて取り組むことにしました。

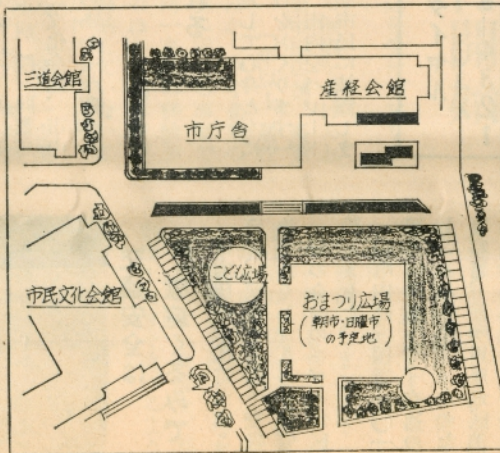
県がまとめた三月の消費者物価指数は、四十五年を一〇〇として衣食住全般の十二項目にわたって調べたもので、五所川原市は一〇六・四(前月比一・六減)となり、県内八市で最低の結果がでました。

しかし市では、生鮮食品の一时的な値下りも反映しているものとみて、樂觀は許せない現状を把握し、四十七年度予算の編成にあたっては固定資産税の引き下げ、公共料金の凍結に踏み切るなど行政面からも歯どめをかけております。市の「物価流通対策班」はさ

らに消費者物価の恒久的な安定をはかるため、一歩前進し市民と直結した物価安定対策として、まずこれまでの統一を欠いたタテ割りの機構を反省し、商工観光課、農林課農業委員会事務局、情報課が参加したヨコ割りシステムに再編成した対策班を設けたものです。

対策班では、複雑な流通機構にメスを入れ市内の消費者物価の動きを正確につかみ、五所川原商工会議所市農協とタイアップし、市庁舎前庭が、市民いこいの場として誕生する「おまつり広場」に朝市や日曜市を開いて、野菜、魚などの生鮮食品を市民の台所へ供給します。

また、格安品を並べた「掘出し市」や「びっくり市」も開いて、良い品を安く求められる機会を与えるは



りんごの花は

さくらの花に増して美しい

だが農家はその美しさに

魅せられてばかりはいられない

花のあとには さらにみごとな

実りをみなければならぬから

今日も祈りをこめて

新たな生命を花に吹きこむ

りんごの花が開くと

津軽の 野づらは

急に あたたかくなる

か、「花と苗木」の交換会を開いて、暮らしやすい市民生活に向けて取り組むことになりました。

広報タイムの

お知らせ

市ではATV(青森テレビ)、RAB(青森放送)に広報タイムを設けています。

タイトルは「五所川原市政ダイヤル」です。

RABは毎週土曜日午前十時二十六分から、

ATVは第一日曜日午前七時五十分から放送されております。



♪ 楽しい仲間よ、みんな集まれ。市の「太陽と子供の日」の七日五月晴れのもとにことし一回目の「おはようサイクリング」が行なわれ、朝モヤをついて楽しいサイクリングスポーツのひとつを過しました。

「おはようサイクリング」は、市が昨年五月から明るく家庭環境づくりをめざしてさだめている「太陽と子供の日」運動のひとつとして行なっているものです。昨年は五月から九月まで月二回（第一、第三日曜）計十回行なっています。ことしは市教育委員会の太陽と雪の課と五所川原サ

農薬取扱に注意

りんごの開花期に入り、薬剤散布の本格的な時期となりました。農薬の使用にあたっては人体への危害防止のため農薬の保管や空ビン等の処理、使用基準をよく守りましょう。

イクリング協会（成田二雄会長）が共催で九月まで毎月第一日曜日に実施することになりました。

ことし一回目の七日には佐々木市長、小山市教育長らも愛車で駆けつけたのはじめ小、中、高校生徒に混って、家庭の主婦やおとしよりなど約二百五十人が参加しました。午前六時、朝モヤのなか市民文化会館前を一班十五人編成で出発、柏村までの往復十キロを走破しました。

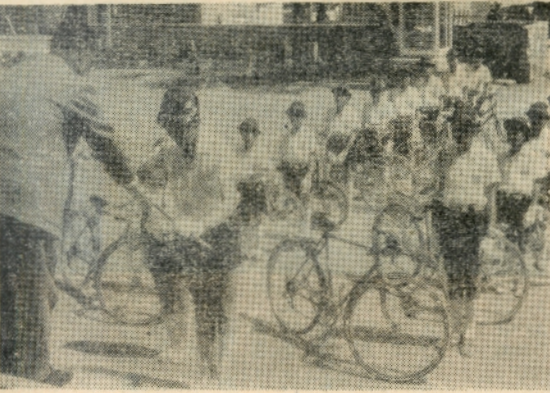
一行は朝日に銀輪を輝かせ、田植準備に忙しい農家の人々が手を休め見守るなかを、元気にペダルを踏んでいきましたが、参加したなかで最長老の市内新町の飛島直吉さん（七十五歳）は若者にまげじと張り切っていました。

県内初のサイクル少年団結成される

この日また、県下に先がけ「五所川原市サイクルスポーツ少年団」が誕生しました。

おはようサイクリングが刺激となりサイクリング協会が中心に準備をすすめていたもので、小学四年以上中学校二年までの生徒三十人が参加して

午前十時から市民会館前で結成式をあげました。そこの制服、制ぼろにバッチをつけ各自の自転車と並べて勢ぞろいしたあと市スポーツ少年団成田弘三本部長が小山内文康団長に団旗を手渡し、各班の子供の代表が「サイクリ



団旗を受ける団長の小山内君

市政ダイヤル
T5-4321

伸びゆく市政に あなたの声を

市では市民に密着したきめ細かな市政をおすすめてゆぐため「あなたの提案箱」を設けました。市政について皆さんが日頃考えていることや要望ご意見、不満点などなんでも結構で不用紙は自由ですが、なるべく提案箱に備え付けの用紙に住所、氏名、職業、年令（氏名を明らかにできないときは匿名）を明記し気楽に投函してください。

提案箱の設置箇所は、本庁支関のほか、各支所、市立西北中央病院、同敷島分院、市民文化会館、市中央公民館のあわせ十四箇所

です。提案箱は毎月一回、定期的に開いて、皆さんが投函されたご意見や苦情は、直接取り上げ、市政に反映させますので市民が市政に参加するパイプ役として多に利用してください。



交通安全は家庭ぐるみで

市内田町、栄町ではこのほど、家庭ぐるみで交通安全故をなくしようと交通安全「母の会」のモデル地区を設けました。

両町内は、国道一〇一号线沿いであって、交通の激しいところです。このため警察署、五所川原地区消防本部、同交通安全協会の指導を受け、両町内会の「母の会」分会（成田照子会長）が中心になって発足しました。モデル地区の活動では、交通安全「母の会」に全戸加入を呼びかけ、毎月一回十五日を交通安全の家族対話の日と定め、夕食時に家族全員で対話をすすめることにしております。

ほかに地区町内会のごとくに交通事故に弱いこともとおとしよりに事故にあわないよう、いたわりの「ひと声運動」を徹底して行なうなど、おかあさん方を中心とした家庭ぐるみの交通安全故防止に立ちあがりました。

緑を育てる市民運動

青年会議所が提唱

五所川原青年会議所（理事長鶴谷 緑郎、会員七十三人）は、緑を育てる市民運動をはじめ、市民の協力を望んでおります。

五所川原市は、過去の大火によって樹々を失い、緑

のとほしい潤いのない街といわれております。このため市が中心になって緑化運動を展開してきましたが、市民に定着しない限りは「太陽と雪の課」が中心になって市民参加の小島の森づくりをはじめております。青年会議所では、この小

鳥の森づくりに呼応して、緑を育てる市民ぐるみの運動をさらに促進するためさっそく運動を始めました。

五月二日には十台の車に垂れ幕をさげキヤラパン隊をくり出し市民にPRしたほか、五日にはジャズオーケストラのチャリティーショーを開き、当日会場で募金運動を行いました。

また五月中には、市をはじめ地元連合町内会や子供会、婦人会、青年団、PTA、商工会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラ

47年度特別保証

融資の受付開始

市と五所川原商工会議所では、四十七年度の特別保証融資制度で総額五千万円の簡易小口保証特別融資（丸小制度）と総額七千万円の近代化（中小企業）資金の特別保証融資（丸近制度）を行なっており四月一日から十二月三十一日までの

ブなどの公共、民間団体に呼びかけ「緑を育てる市民協議会」を結成し六月には一回目の会議を開いて実施計画についての意見発表を行ないます。協議会では今後、市全体の緑化のすすめ方についてのマスタープランを作成するほか担当の専門機関を設け各種のキャンペーン、ステッカー作戦などを展開し、市の小島の森づくり運動に歩調をあわせ積極的な市民運動を展開します。

期間で申込を受付けております。両制度で融資を受けられるのは、当市に店舗、事業所があり、一年以上居住しているほか、中小企業の信用保険法に定める事業で一年以上同一事業の経験があることのほか、過年度分の市税が滞納していないことが条件です。

融資額は丸小制度が一企業につき百万円以内、丸近制度は一千万円以内でともに運転および設備資金として融資されます。貸出金利および保証料は、ともに年利率が一、〇九割（日歩二厘九毛）。融資期間は丸小制度が二年以内、返済は原則として割賦弁済、丸近制度は七年以内で、原則として

割賦弁済だが、六ヶ月以内の据置きを設けることができます。

なお申込方法や取扱い金融機関など、その他詳しいことは商工会議所又は市観光商工課へお問い合わせください。

食中毒シーズン

まず清潔に

梅雨期になるとうっとうしい日が続く、室内に湿気がこもって日常生活もとかく不衛生になりがちです。とくにこの時期には湿度が高いので、食べ物は酸酵分解を起し、細菌が発育するよい条件になり食中毒がふえてきます。食中毒は、毎年一般家庭から一番多く発生しておりますので次のことによく注意しましょう

- ▽清潔にしましょう
食べ物はもちろん、調理器具はよく洗って消毒してください。
- ▽迅速に処理しましょう
鮮度のよい食品を、早く調理してすぐ食べるようにしてください。
- ▽食物は冷却しておきましょう。
食品の保存は冷蔵庫ですが、温度は摂氏五度以下に保ってください。

（五所川原保健所）

生活環境

パトロール本部

T 51414



前田さん

勲五等瑞宝章

昭和四十七年春の政府勲で五所川原市梅田字福浦前田重太郎さん（七五歳）は、永年地方自治に尽くした功労が認められ、勲五等瑞宝章を受け六日県庁において伝達されました。

前田さんは、昭和十三年七月、梅沢村議会議員に当選以来、二十一年七月に同副議長、二十五年七月に同議長に就任、三十年二月に

は鶴田町議長をつとめるかたわら県議公会理事に選ばれ一貫して議員活動を続け三十二年十一月には自治庁長官（国務大臣）賞を受けております。その後地元の後援会や社会福祉関係の仕事にもたずさわる一方、町村合併により昭和三十八年九月五所川原市議会議員に当選しております。

現在、県遺族会評議員、梅沢地区遺族会会長をつとめ多忙な毎日を送っておりますが「このよろこびを市民と分かちたい」と受章のよろこびを語っております。

明日を開く 映画の会開催案内

家族みんなで楽しめる、ためになる映画会です。おそろいでおいでください。入場は無料です。

▽とき 5月27日（土曜日）午後2時～4時

▽ところ 市民文化会館大ホール

▽上映映画 「たづ子さんの子ども新聞」
不幸な人々を励まし、元気づけた愛情と誠意を美しく描いた作品です。
「伸びゆくこどものグループ活動」

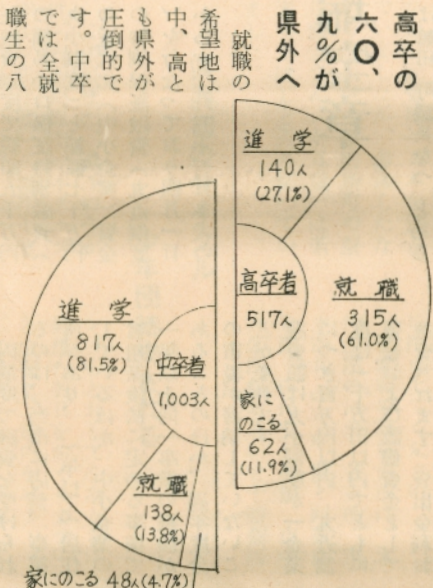
46年度中高卒者の動向

農業後継者やや上向く

市農委はこのほど、ことし三月卒業した市内中、高校生を動きをまとめました。中、高の学卒総数は千五百二十人（中千三人、高五百七十七人）で、中卒は進学（八百七十七人）が

長男の就職ふえる

中卒の男子五百人のうち長男が二百五十一人、二、三男ほかが二百四十九人で長男で就職するのは前年より一二、三割ふえている反面、長女が逆に三、九割減っています。進学は長男が減って二、三男ほかがふえ（前年より二、一割）女子も似た傾向をしてみました。家に残る、のは長男が前年より五、五割ふえています。高卒は、農業以外の産業へ就職する傾向が調べから予想されています。



「高等教育」の関心高まる

○、五割で高卒は六〇、九割の過半数となり、市内を含む県内希望は中卒の一九五割、高卒の三九、一割です。希望職種は、前年と同じく製造業が全体の四七、七割と一番多く、卸小売業の一五、九割に次いでサービス、電気、ガス、水道の順です。

職場での専門技術の要請から高等教育に対する要望を反映し、中卒の八一、五

割にあたる八百七十七人が高校進学を希望しています。高卒は、大学や専門学校への進学にあたっては、前年に比較し農業関係の進学が減少しています。

農家出身は五七、二%

農家出身は、中卒五百四十九人、高卒三百二十一人のあわせて全卒業者の五七・二割です。このうち農業に従事するのは中卒の四十八人、高卒の百九人で中高あわせて全卒業者の一八、二割です。また将来農業経営を受け継ぐ者はあわせて七四割（中三、八割高一三、七割）で前年より一、三割とわずかながら上昇しております。

この調査から

この調査から中、高卒とも「家に」のうち将来、自家の農業後継者となる者は七・四割と前年よりややふえています。減反や不順天候予想、出かせぎの慢性化などの当面する農業問題の複雑化するなかで、新しい農業を目指した意欲的な農家が生まれつつあります。左々木市長は、新しい予算編成のなかで「米とりんごの基幹作目を中心に、積極的な総合農政に取り組む」と述べております。

農業後継者の育成については、夏冬二回の「農業大学」農村青少年クラブの育成、県主催の「移動農業大学」への参加指導、さらには県農試など既設研究機関の利用と「五所川市新農業研究所」が主体となり、後継者の育成と定着化をはかっております。

野草の花だより

市内神山の「津軽フラワーセンター」には、自生している野草やかん木類（約三百五十種）があり、初夏に入って色とりどりの野草がきれいな花を開き始めました。「

津軽フラワーセンター

(五月初旬) - (二十日頃)

野草の花だより」コーナーを設けましたので、参考のうえ家族づれでおいでください。見ごろの野草は、まず△ナガハシスミレ（スミレ科）。テングスミレの別名もあり、長い距を天狗の鼻にたとえたもので

あいがあってから入ってきた植物です。昔からあったエンタンポポをおしこのほか、淡紅紫色のエキゾチックな花を咲かせる▽アズマギク（キク科）。黄金色の美しい花

を聞く▽キジムシロ（バラ科）。春真先に白い小花をつける▽ハコベ（ナデシコ科）が▽ウシハコベ（ナデシコ科）とともに咲きます。ハコベは、めしべの先が三つに分かれ、ウシハコベはハコベより大柄でめしべが五つに分かれてるので区別できます

▽タネツケ

バナ（アブラナ科）種漬の花の意味です。この花が咲き始めるころ、モミを水漬けするところに和名の由来があります。

